

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 4年 4月 13日

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3470214408		
法人名	シューペルブリアン 株式会社		
事業所名	グループホーム 輝き ゆきの家		
所在地	広島市佐伯区湯来町白砂423番地2		
自己評価作成日	R3.12.8	評価結果市町受理日	

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先URL	
-------------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人 FOOT&WORK
所在地	広島県安芸郡海田町堀川町 1番8号
訪問調査日	令和 4年 4月 13日（水）

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

家庭的な環境の下で日常生活の介助を通じて安心と尊厳のある生活を営むことを支援する
--

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホーム輝き・ゆきの家は、鉄骨造りの平屋建てで、回りは、自然に恵まれ四季を感じることが出来、近隣との関係も良好である。利用者一人ひとり、住み慣れた地域の中で、日々の生活を自分らしく楽しく暮らせるよう取り組んで居られる。事業所理念である「豊かな自然と美しい水が四季の魅力を彩る湯来町で 笑顔の種と 日頃の幸せを忘れない毎日 をお見守りします」を玄関ホールに掲げ、実践に繋げている。現在コロナ禍においては、施設で過ごすことが多い中、スタッフもいろいろ行事等を工夫され、利用者の皆さんとスタッフと一緒に、手作りで、作品づくりに取り組んでいる。玄関横の長いスペースには、手入れをされた、いろんな花が咲いており、心が和むひと時を持つことが出来る。ゆっくりとした時間が流れている。

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	「笑顔の種」と「日頃の幸せを忘れない毎日をお見守りする支援を心がけている。	玄関ホールに理念である「豊かな自然と美しい水が四季の魅力を彩る湯来町で 笑顔の種 と 日頃の幸せを忘れない毎日をお見守りします」を掲げ、全職員は、出勤時には、目を通して実践に繋げている。又、今年のテーマを「和」として、お互い、和やかな日々が送れるように心掛けている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一員として日常的に交流している。	職員は施設周辺の掃除等行っている。	地域の清掃や草刈りに参加したり、地域の会議には、現在コロナ禍においては、リモートで参加している。利用者や散歩している時には、良く挨拶を交わしている。。美味しい水で育った米は、地域から、購入している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	地域行事等に利用者と一緒に参加している。(コロナ禍の為、行事等中止になっている)		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2ヶ月ごとに運営推進会議を行い事業所での状況や月の行事の事等を報告している。	運営推進会議は、2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員・訪問看護師・地域の薬局・施設管理者・シューベルブリアン取締役・等が参加して開催している。事故状況、利用者状況、行事報告等、意見を頂きながら、頂いた意見をサービスの向上に活かしている。	
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	介護保険認定調査を申請したり市町村担当者に手続き等でわからない事があればすぐに連絡を取り指示を仰いでいる。	区生活課に書類を提出したり、事業所の実状や取り組み等を相談したり、助言を頂いたりして、協力関係を築いている。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	利用者様の心身の状態を正確にアセスメントすると共に現場の実態を把握した上で身体拘束を必要としない状態を作り出す方向を追求していく。尚一時的に拘束を行わなければ行けない事情が発生した場合にはご家族と相談し同意を求める書類を作成している。	日中、玄関は、施錠していない。外に出る利用者には、さり気なく職員が、一緒に歩く等して、対応している。そして、月1回、「身体拘束ゼロへの手引き」で研修を行い、3ヶ月に1回、身体的拘束廃止委員会を行い、拘束しないケアに取り組んでいる。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	利用者の日常の様子や入浴時での身体確認、利用者様からの訴えに耳を傾けるようにし、利用者様、ご家族様との情報共有に努める、ミーティング等で学び理解し実行している。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	各種関係機関と連携し包括的な支援を行う。佐伯区生活課への相談業務を行う。		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者がご家族様に説明し理解を図っている。改定時にご家族様の同意を得る。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	ご家族様に状況を説明し意見、要望を求めている。請求時に利用者の状況を書面で送っている。	施設玄関に苦情相談箱を設置しているが、殆ど直接か電話で、対応している。最近は、面会の事とか、季節の衣類の事が多いが、家族の意見や要望がある時には、会議等で検討し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	ミーティングの日程を設け職員からの提案や改善策を聞き入れ代表者に報告し検討している。全員同じ介護ができるように利用者の状況を把握するミーティングを行っている。	管理者は、ミーティング時や日々の業務の中で、職員からの意見や要望を聞くようにしている。トイレ誘導等、難しくなったり、利用者の状況や介護の仕方等、把握し、会議等で検討して、運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	管理者自ら現場に入り職員個々の動きを把握し共感して協力的に働く事で職員の世界整備に努めている。		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実態と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	代表者の指示のもと職員間で疑問があれば話し合い、お互いの知識を交換し合う事で技術向上させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	勉強会、相互訪問等の活動は現在出来ていない。電話連絡等の際、情報交換する事でサービスの質の見直しを行っている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ご家族とのコミュニケーションを蜜に取り本人の趣向や馴染める環境の情報を聞き入れ安心して過ごされるように配慮している。ご利用者様とのコミュニケーションも大切にしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	事前の面会等を通じて必要な介助の度合いや認知症の進行状況を把握する。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	入居前にミーティングで職員が情報を共有し話し合う入所判定を行う。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	お盆拭きや洗濯物干し、たたみ等出来る事は声掛けにて手伝って頂く。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	必要な物品や対応があればご家族に連絡し相談する。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	面会があれば相談室にて時間を決め、対応行っている、地域行事への参加は自粛中。	近所の方が、尋ねて来られたり、電話の取り次ぎを行っている。家族とは、短時間の面会もある。又、利用者とかかりつけの外来受診の時に一緒に出向いたりしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずにご利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	職員が間に入り利用者の会話の手助けをしている、トランプ等出来る方に声掛けを行い参加してもらっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	電話対応で様子を伺っている、年賀状を送付している。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	外への散歩は職員が付き添い行っている。歩行の不安定な方は職員介助または、車椅子使用にて散歩を行っている。	利用者一人ひとりの思いや希望している事を把握して、本人本位の暮らしが出来るよう取り組んでいる。(外の空気が吸いたい・習字・読書・新聞購読・マッサージ治療希望等)	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	今までの情報を確認して把握している、コミュニケーションが可能な利用者様には直接聞き取りをしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	脚のむくみ等がある方はマッサージや歩行の声掛けを行い、見守りにて歩行やその場での足踏み運動等行っている。他、足浴等も行う。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	ミーティングを行いそれぞれの意見を反映した現状に即した介護計画を作成している。スタッフミーティングや申し送り等で出た意見を検討し現状に合ったケアを実践している。	月1回のミーティング時に日頃の状況・経過記録などの情報をケアマネを中心に話し合い、定期的に見直しを行い、介護計画を作成している。又、利用者の状態の変化に応じて、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	日々の様子やケアの実践結果、気づきを記入し職員間で情報を共有し実践につなげている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	本人やご家族の状況、ニーズに柔軟に対応できるよう取り組んでいる。個々に合わせその時の状況に合ったケアを実践している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	現在は実践出来てないが、地域の行事に参加し楽しむ事が出来るように支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人やご家族の希望を重視しご家族にも協力を得ながら適切な医療が受けられるように支援している。	殆どの利用者が事業所の協力医療機関の受診を受けている。月1回の全体往診の他、個人の往診も行っている。訪問看護は、週1回、歯科も希望すれば往診がある。その他の他科受診は、家族の協力を得るが、都合の悪い時には、事業所からも支援している。	

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	パソコン、経過記録等を利用し常に訪看や主治医と情報を共有し指示を受けてる。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	管理者や(入院先の)看護職員を通じ職員間で常に状況を把握し相談対応出来るようにしている。看護サマリー等共有している。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化し本人と意思疎通が出来ない状況の場合、主治医と連携を取り合いながら、家族へ説明し支援出来るようにしている。	契約時に重度化・終末期対応指針を家族に説明している。重度化した場合には、本人・家族が望むような人生の過ごし方が出来、グループホームでの生活が継続できるように最大限の対応をする。そして、主治医・看護師・職員・必要に応じて多様な専門職との連携を行い支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	急変や事故が発生した時、管理者へ報告、BT測定のチェック等欠かさず行い、実践対応出来るよう努めている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	年2回計画書をもとに消防訓練を行っている。地域の消防団とも密接に関わりを持っている。テレビやその他の情報をいち早く受け取り対応出来るようにしている。	事業者は、消防計画等の防災計画に基づき、年2回、昼夜を想定した通報訓練・避難訓練・消火器の使用等を行っている。土砂災害警戒区域に一部、入っているため、合わせて、対応策を話し合っている。	
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人生の先輩として尊敬し尊厳を守り身の回りの支援をさせて頂くという気持ちを持ち言葉遣いや支援、サービスに留意しながら接するよう努めている。	プライバシー保護の研修や接遇研修は、全職員が参加して、周知している。言葉使いで気になるところは、管理者が、個別に注意する事もある。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	日常の会話を通じて親近感を高め思いや望みを話しやすい環境に整え利用者の思いを実現出来るように心がけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	可能な限り利用者のペースで進め無理な事はさせないペースを乱さないように心掛けている。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	希望者には美容師が訪問しカットして頂いている。衣替えを職員が季節によって替え、男性の髭剃りも声掛けにて頂き、剃り残しは介助にて対応している。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている。	毎日の献立を見える場所に書き出している。食後には下膳をして頂いたり、お盆拭きをして頂いている。	食材は、宅配業者に依頼しているが、ご飯は、事業所にて炊いている。行事食(おせち料理・クリスマス会・ひな祭り等)やおやつも提供される。毎食のメニューは、利用者の方が、毎日書かれ、食事前に「今日の献立」を発表される役割の方が居られ、楽しく食卓を囲まれている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	利用者一人一人の体調管理を行い、食事量、水分摂取量に気をつけ提供出来るよう支援している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	ご自身で行える利用者様は声掛けを行い、そうでない利用者様は介助や見守りで行っている。治療が必要な場合は家族に相談し訪問歯科の受診を行っている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	定期的にトイレ誘導を行い排泄を促している。	排泄チェック表を作成しており、排泄パターンを把握し、一人ひとりに応じた声掛けや誘導で、トイレでの排泄・オムツ外し・排泄の自立に向けた支援を行っている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	食事、水分補給での対応と体操等で行っている。一人一人の周期を確認し主治医、訪看に相談し指示を仰いで便秘薬等提供している。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	夏は週3回、冬は週2回声掛け、見守りにて入浴されている。ご自身で入られない利用者様は全介助にて気持ち良く入浴されている。入浴後は水分摂取をして頂き体調管理を行っている。	入浴は、週2～3回でゆっくりと入って頂いている。体調に合わせて、シャワー浴や二人介助の方も居られる。入浴拒否をされる方は、時間をずらしたり、清拭・足浴等で対応している。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜間定期巡室し安全を確認している。ホールで過ごされたり居室で休憩されたり、自由に出来るよう支援している。室温、温度等も確認している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	訪問看護や主治医に報告し指示を仰いでいる。服薬の情報をファイルし職員がいつでも確認出来るようにしている。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		<p>○役割、楽しみごとの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。</p>	<p>日々のコミュニケーションからの情報を得て行事、レクリエーション等に取り入れ楽しんで頂けるよう努めている。</p>		
49	18	<p>○日常的な外出支援</p> <p>一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。</p>	<p>現在はコロナ禍の為、実施出来ていないが地域の方の協力のもと行事等に参加させて頂いている。ご家族様との外出の際にはご家族様協力のもとで実施されている。</p>	<p>現在コロナ禍においては、外出支援が難しくなっているが、天気の良い日には、近隣の散歩に出掛けたり、車で花見に出掛けている。家族と一緒に病院受診に行かれる方も居られる。</p>	
50		<p>○お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。</p>	<p>利用者様から希望があれば自動販売機からジュース等購入されている。散髪代等は自身で支払いをされている。</p>		
51		<p>○電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。</p>	<p>利用者様から希望があればご家族様承諾のもと電話で話されています。手紙はいつでも対応している。</p>		
52	19	<p>○居心地の良い共用空間づくり</p> <p>共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>季節ごとにホールの飾りを変えたり居心地良く過ごして頂く為に清潔を保持し、気温に応じての室温、温度に注意し配慮している。利用者様の出来る範囲で手伝って頂き、ホールの飾りを作っている。</p>	<p>玄関に至るスペースには、色とりどりの花が咲いている。玄関ホールも広く手作りの飾り物が、下がっている。リビング兼食堂もゆったりとした暮らしが出来る環境がある。一人ひとりの居場所があり、思い思いに過ごされている。壁面には、季節を感じ取れる様、工夫されており、居心地の良い空間になっている。</p>	
53		<p>○共用空間における一人ひとりの居場所づくり</p> <p>共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。</p>	<p>居室とホールを自由に行き来出来るようにし席の配慮をする事で利用者同士のコミュニケーションがスムーズに行くように支援している。</p>		
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを使って、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>ご本人の要望を聞き入れ必要な物はご家族に連絡し持参や送って頂いている。居室内の配置は過ごしやすいようご本人、もしくはご家族様と相談しながら決めている。</p>	<p>本人が、今まで使い慣れた、筆筒・テレビ・机・椅子・衣装ケース・家族写真・手作り作品・花・絵画等好みの物を持ち込み、配置され居心地よく過ごせるよう工夫されている。</p>	

グループホーム 輝き ゆきの家

自己 評価	外部 評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて 期待したい内容
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者個々の身体状況を把握し職員間で情報共有し自立支援を心掛けている。</p>		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	『笑顔の種』・『日頃の幸せを忘れない毎日』をコンセプトに利用者様を尊敬や理解する気持ちを持ち、支援している		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	地域の清掃や草刈りに参加し、交流を図っている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	今まで支援してきた介護方法等を地域に発信し、認知症の人の理解を得ている。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	定期的開催し、行事やサービス内容に関して報告やご意見を頂いている。		
5	4	○市町との連携 市町担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。	運営推進会議の案内、報告書を提出している。必要時には、相談等、随時連絡確認している		
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束マニュアルを熟読し、報告・連絡・相談のもと、ケアマネジャー指導のもと禁止している。月一度の勉強会を設け、記録に残している。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	広島市ホームページの虐待防止マニュアルをもとに施設職員が研修を行ない、日常の様子や入浴時等の身体確認、利用者様からの訴えに耳を傾けるようにしている		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	施設の玄関に成年後見人制度のパンフレットを置き必要であればご家族からの相談も受けている。関係者とは、随時連絡確認をとり権利擁護を学ぶ機会を設けている		
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	契約時に契約書、重要事項説明書を家族に順次説明している。改定時はキーパーソンに理由説明を行ない理解を頂いている		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	施設玄関に苦情用紙、及び苦情意見箱を設置しご家族が来所された折には、会話の時間をもち意見・要望がないかを確認している。		
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	定期的にユニットごとのミーティングを行ない、情報・意見交換の場を設けている		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	個人面談を行ない、要望や意見を聞き、改善・向上等について話し合いを設けている		
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	日々の業務を細かく把握したり個人面談にて希望を聞きながら研修案内の紹介をしている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	定期的にグループ内の管理者が集まり、情報交換や勉強会を行っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	事前に本人、家族と面談をして本人の要望や不安を傾聴して安心してサービスが提供できるよう納得して頂いた上で支援に努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	本人含め、家族との話しやすい場を持つ事により、今後も個々に合ったサービス提供に努め、施設側が支援する内容を詳しく話し合う機会を設け常に連携を保つように努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	事前訪問や施設に来所して頂く機会を設け、本人や家族の抱える不安を傾聴し、本人主体の支援をすることで家族や施設側との関わり方を話し合っている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	その時々への想い、出来ることや今までの習慣を尊重し、安心して生活していける環境を提供し、本人の要望を確認しながら日々の生活を支援していく事を心がけている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族に対して、常に報告、連絡、相談を徹底し良好な関係を保つようにしている。又、特変がない時でも月一度の手紙で現状報告を必ず行っている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	本人との会話の中から昔、お世話になった人や場所を聞いて家族から情報を集め発信している。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	利用者個々の特徴を把握し、座席を考慮し、楽しく会話が出来る場を提供し関係作りに配慮している。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	他施設に転居した際は面会に行き、退去した後も家族と手紙やメール等でやりとりをしながら支援に努めている。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	これまでの生活歴を考慮し、状態や表情から思いや意思を汲み取り、本人らしさが出るよう支援している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	利用者個々のこれまでの生活環境を本人や家族から聞くことで情報を得ている。慣れ親しんだ生活に近く感じて頂けるよう支援に努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	一日の過ごし方を個々の状態等確認し、支援方法にも考慮している。本人の思いを共感し意向に添える支援を行い、記録等で状況の確認を行っている。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	毎月のミーティングの際、利用者個々の状態等確認し、職員間で支援方法を話し合っている。日々の生活からも支援方法を考え、介護計画の作成、見直しを行っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	連絡ノートを活用し、情報の共有を行っている。毎月のミーティングで話し合い、実践や介護計画に反映させ、個別記録に記入する事で職員間で見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	毎日の記録の確認を行い職員間で情報を共有する事で柔軟に対応している。日々の変化等を観察し報告を欠かさず行っている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域の各委員の方々の訪問やボランティアの受け入れを実施している。ただ、新型コロナウイルスの影響でボランティアによるイベントが中止になった時期もあり、その時は施設内で小規模のイベントを開催し職員が盛り上げ楽しんで過ごす事が出来るよう支援している。		
30	11	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	本人、家族希望のかかりつけ医を確認している。往診等がかかりつけ医と連携し、適切な支援をしている。緊急時等は家族と蜜に連絡を取り合い、かかりつけ医の指示のもと、適切な対応を行っている。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	利用者の行動の変化や体調面の変化があった際は即時記録をし、週1回訪問看護に報告・相談を行い、今後の改善に努めている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	受け入れ病院に対しての経過確認の電話や定期訪問を職員が行い情報交換をしている。同時に各病院の医療連携室などにも連絡や訪問を行い関係づくりに努めている。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所ですることができることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	家族や主治医との連絡や連携を取り、緊急時にスムーズな対応が行えるように努めている。また、主治医の所見や意見を家族とともに聞き、本人や家族の意向とも折り合わせながら今後の対応を決定している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	応急手当の方法の研修を実施している。また、緊急時の対処がスムーズに実行できるよう、緊急時のマニュアルを基本として行動をするよう職員に周知徹底している。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	定期的に消防訓練や避難訓練を年に2回実施している。避難訓練時にはシミュレーションとして職員と利用者も含めて実施しており、避難経路・避難場所の確認をしている。地域の青年団との交流にも努めている。		
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	定期的に利用者に対する接遇に関する研修を職員に実施している。ミーティングの際にも接遇に関する気づきがあった時などは職員間で意見共有し、改善や向上に活かしている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	利用者本人の思いや希望を第一に考え、自己決定ができるように職員が接し方に注意を払いながら対応をしている。自己決定が難しい場面では、本人が満足して生活していけるように誘導や支援を行っている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	レクリエーションや体操の時間等は利用者に声掛けを行い各利用者ごとの生活のペースやリズムを掴み、趣味や性格を職員がしっかりと把握して、各利用者が笑顔で幸せに生活ができるよう支援する事に努めている。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	朝の起床後には声掛けにて洗顔と整髪を促している。本人で洗顔や整髪が困難な場合は、職員が介助にて行い身だしなみに関して支援を行っている。また、訪問理美容にて希望者は定期的にかット等を行っている。美容液等の化粧品類を希望される利用者は、家族へ相談し協力を頂いている。		
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	職員は利用者と献立について会話や談笑をしながら食事を作っている。食事前のテーブル拭きや、食事後の下膳・食器用トレイ拭きなどは利用者にも協力してもらい職員と一緒にやっている。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	随時、食事量や水分摂取量を記録している。食事量が少ない利用者は医師の指示のもと栄養補助飲料を飲んで頂き、水分摂取量の少ない利用者はゼリーや他の飲料を摂取して頂く事で、一日を通じて十分な摂取量が確保できるよう支援を行っている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後や起床後に口腔ケアを実施している。丁寧に口腔ケアをして頂くよう促し見守りを行い、必要に応じて声掛けや介助を行っている。口腔内の治療が必要な利用者は家族への相談を行いながら、訪問歯科での受診を実施している。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	随時、排泄時間と細かい排泄内容の記録をしている。各利用者の排泄時間の間隔を把握し、記録内容を確認しながら声掛けにて排泄を促したり、介助が必要な利用者はトイレ誘導・介助を行い、排泄の自立の支援を行っている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	十分な水分摂取と食物繊維の摂取を促している。毎日の体操も参加を促し、施設周辺の散歩も実施ししっかりと身体を動かして頂くよう声掛けを行い、便秘の予防に努めている。便秘になった利用者は医師に相談をしながら便秘薬の処方をして頂いている。		
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	一人一人の日々のタイミングを職員で共有し本人の入浴時間の希望を聞いたり、各利用者ごとにゆっくりと入浴をして頂けるように努めている。また、入浴拒否をされる利用者は清拭・陰洗・足浴などを行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	各利用者の希望に応じて居室内で休息を取って頂いている。また一日の施設内の温度や湿度の状況も定期的に確認し、安心して気持ちよく眠って頂けるように支援を行っている。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	各利用者の薬の情報は職員間で常に共有をしている。また、各薬の効果や用法等の詳細情報の資料をファイリングにて管理しており、職員が即座に確認が取れるようにしている。主治医や訪問看護に各利用者の最新の状況や症状等を報告し、指示を仰いでいる。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	家族からの情報や利用者とのコミュニケーションでの会話の中で情報を得て、充実した日々を過ごせるよう支援している。又、年間行事などに取り入れて楽しんで頂けるよう努めている。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	地域や近隣の方に協力、理解を頂き、庭園や施設周辺の散歩、日光浴を実施している。家族との外出も家族の協力で行っている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	家族の協力のもと、お小遣い程度のお金を保持して頂き、必要な時にご自身で支払って頂くようにしている。トラブルが起きないよう、窓口は管理者が行っている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	手紙や電話のやりとりは利用者、家族間で行われている。ただし電話については、家族に前もって相談した後に使用していただいている。		
52	19	○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	共用の空間には行事の写真やお知らせ等の案内を貼り、ホール内には利用者と職員がレクリエーションなどで作成したものを貼っている。季節感を重視し、壁の飾りを張り替え、工夫している。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	レクリエーション時では、普段会話しない方同士を隣に座って頂くことで会話の機会を増やしたり、職員が間に入り、場をつなぐように配慮している。		

グループホーム 輝き ゆきの家

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	20	<p>○居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。</p>	<p>安全面を考慮しながら家族や本人と相談し、家族写真や置物を設置する事で本人が居心地よく過ごせるよう持ち込みをして頂いている。</p>		
55		<p>○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。</p>	<p>利用者個々の「できること」を職員間で共有し、安全に行えるように支援している。利用者も役割を理解し、他利用者とも協力し、自立した生活を送っている。</p>		

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。	○	①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○	①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
60	利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○	①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない

グループホーム 輝き ゆきの家

64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○	①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている	○	①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
66	職員は、生き活きと働けている	○	①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム 輝き ゆきの家

作成日 令和 4年 4月 14日

【目標達成計画】

優先順位	項目番号	現状における問題点, 課題	目標	目標達成に向けた具体的な取組み内容	目標達成に要する期間
1	38	利用者に対するレクリエーションが取れていない	日替わりで充実した内容を行う	ミーティングにて計画書を見直す	3か月
2					
3					
4					
5					
6					
7					

注1) 項目番号欄には, 自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は, 行を追加すること。